

編集委員長からのご挨拶

～RMBの大きな転換期～

Reproductive Medicine and Biology (RMB) は、2002年に日本生殖医学会、日本受精着床学会、日本アンドロロジー学会のオフィシャル・ジャーナルとして発刊されました。そして、2016年には、アジア子宮内膜症学会も加わりました。RMBでは年に25-30編の優れた原著や総説が順調に掲載され、現在までに15巻の雑誌が発刊されています。多くの生殖医学関連のジャーナルがある中で一定の役割を果たし発展してきました。しかしながら、最近10年間をみますと、投稿数は増加しておらず、またその多くは日本からの投稿であるという状況が続いています。我が国は、年間40万周期という世界のARTが行われる生殖医療大国になっています。本邦の生殖医療・医学をさらに向上させ、その情報を世界に発信してゆくことは、生殖医療・医学に携わる我々の重要な使命であると思います。そして、日本が世界の生殖医学を牽引していくためには、日本発の情報発信のツールであるRMBをさらに発展、充実させていくことが重要ではないでしょうか。

そこで、各学会や会員の意見等を参考にし、編集委員会や理事会で議論を重ねた結果、RMBのさらなる発展を目指して電子ジャーナルに移行することが決まりました。2017年の1月からRMBはオープンアクセス・ジャーナルとなります。これまでの冊子体はなくなりますが（購読していただいている企業・図書館には従来通り冊子配布の予定です）、全世界の人々がRMBに掲載された論文を自由に読むことができるようになるのです。つまり、これまでに比べて、日本からの情報が世界に容易に発信することができるようになるのです。通常はオープンアクセス化により、掲載論文のダウンロードが多くなります。我々編集に携わる者は、より多くの質の高い原著や総説を読者に提供しなければなりません。そうすることにより、投稿数の増加も期待され、RMBが世界に通用する生殖医学のジャーナルになり、日本における生殖医学のジャーナルとしてのリーダーシップ的存在になると考えています。

私は、具体的に次のようなロードマップを考えています。RMBがオープンアクセス・ジャーナルとなった後、25編の論文を発刊すれば、PubMed Central（オープンアクセス誌専用の情報管理システム）への掲載が可能となります（移行後1年以内）。そういたしますと、RMBは、現在世界的に使われている検索システムであるPubMedでの検索が可能となり、投稿数と引用数の増加が見込まれます。そしていよいよ、念願のインパクト・ファクターの獲得を目指します。インパクト・ファクターの獲得には、審査申請後、年間に40編以上の定期的な論文掲載が要求されますし、もちろん世界中から多く引用されることが重要な審査のポイントとなります（申請後2年間必要）。

RMBは日本発の我々の雑誌です。あらためて本誌に掲載されている論文をお読みください。秀逸なレビューの数々をはじめ優れた論文が多く掲載されています。実際に、ここ6年間で20編の本誌論文がCell, Cell Res, Developmentをはじめとしたインパクト・ファクターが3.00以上のジャーナルに引用されています。皆で力をあわせ、外国誌に負けない世界的な雑誌に育てましょう。皆様方のRMBへの投稿をお待ちしております。[合わせて英文論文誌電子ジャーナル化についてのお知らせ](#)もご覧ください。皆様方のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2016年9月1日

RMB編集委員長

一般社団法人日本生殖医学会 編集担当理事

杉野 法広

杉野 法広